

「オホーツクの森づくり」で 植樹した木の草刈りを実施

平成26年6月28日(土)に、「オホーツクの森」に設置している自然再生モデル事業地のカミネッコンによる植樹箇所において、森林ボランティア「オホーツクの会」が主催した「オホーツクの森づくり」が行われました。

当日は、植樹箇所のパオパオシートの補修や下草刈り等を実施しました。参加者は、森林ボランティア「オホーツクの会」の会員や日本赤十字北海道看護大学の学生の7名と常呂川森林ふれあい推進センター職員3名が参加しました。

午前中は初めて参加した看護大生と「オホーツクの会」の方とペアを組んでもらい、パオパオシートの補修を行ってもらい、他の方は草刈りを重点的に実施しました。

なお、昨年初めて、パオパオシートより大きく生長した植栽木については、シートを取り外してみましたが、何カ所か、雪上に出ていたと思われる頭頂部について、ウサギによる食害被害が見られました。ただし、このことで、多少生長は遅れますが、問題はありません。また、今回確認したところでは、エゾシカによる食害も見られませんでした。



当日は夏の日差しが強い日で、皆、作業で大量の汗をかいていたので、午後については佐呂間町の国有林にある幌岩山に行きました。此処には、サロマ湖やオホーツク海を一望できる展望台があります。

残念ながら、知床半島付近は曇って見えなかったですが、展望台までの遊歩道を歩き、森林浴を満喫しながら、展望台でサロマ湖を一望して、午前の森林整備の疲れが癒やすことができました。

また、当日はたくさんの観光客もおり、夏の観光真っ盛りという感じでした。



これから夏本番ですが、皆さま、日々のストレス解消に、森林浴を兼ねて、ぜひ森の中へ来て下さいね。